

## 講習会参加者の感想からみた新スポーツ「ゴルポッカ」の普及に関する課題

### Problem in promotion of new sport “Golpokka” clarified from investigation of the program participant

小 田 史 郎	加 藤 満	白 川 和 希
Shiro ODA	Mitsuru KATOH	Kazuki SHIRAKAWA
千 葉 直 樹	吉 田 真	
Naoki CHIBA	Makoto YOSHIDA	

## 1. 目 的

北海道に在住する人々の身体活動量が積雪期に減少することは、数多くの研究によって報告されている<sup>1,2,3)</sup>。非積雪期に運動習慣を持つ人も例外ではなく、特に屋外スポーツの愛好者は、長期にわたって運動実施の機会が奪われることになる。北海道幕別町で誕生したパークゴルフ<sup>4)</sup>は愛好者が非常に多いスポーツの1つであるが、積雪期における活動については課題として残されている。雪の上でパークゴルフを楽しむためには、常時コースを整備しなくてはならないなど、非常に多くの手間がかかる。そのため冬季にもオープンしている北海道内のパークゴルフ場は非常に少なく、パークゴルフ愛好者のほとんどは約半年間プレーすることができない現状にある。このような背景のもと、我々は「積雪期においても手軽にパークゴルフを楽しむことができないか」という視点で新たなスポーツの開発を進めた。2年間にわたって試行を繰り返した結果、雪上歩行具（かんじきあるいはスノーシュー）やスポンジ製ボール（ノーパンクボール、MIKASA社、雪に埋もれにくく、よく飛ぶ）、カップの代わりに的となるカラーコーンを使用することで、どのような雪面でも手軽に実施できるスポーツ「ゴルポッカ」を開発するに至った<sup>5)</sup>。平成19年2月から現在に至るまで、様々な場所において様々な人を対象に講習会等による普及活動を実施してきた。しかしながら、講習会参加者がゴルポッカをどのように受けとめたのか（楽しいと感じたか、我々が工夫した部分に対して「よい」と評価したのかなど）、またどのような普及活動が望まれているのかについては検討されてこなかった。そこで本研究では、ゴルポッカの一般講習会に参加した人を対象にアンケートを行い、ゴルポッカの生涯スポーツとしての可能性や今後の普及活動における課題等を抽出することとした。

## 2. 方 法

### 1) 対象者

本調査は、2008年1月～3月にかけて開催した講習会あるいはスポーツイベントに参加した延べ112名（男性48名、女性64名）を対象に実施した。各講習会における調査対象者数は、①

Sスポーツクラブ主催の講習会14名，②Sスポーツクラブ主催の大会13名，③S市主催のスポーツイベント54名，④F市主催のスポーツイベント4名，⑤E市主催の講習会13名，⑥M地区主催の講習会14名であった。対象者の年齢構成は10代が6名，20代が8名，30代が26名，40代が24名，50代が17名，60代が17名，80代が2名であった。30代，40代の参加者では，③S市主催のスポーツイベントに親子で参加した人が多かった。



写真1 S市主催のスポーツイベントの様子



写真2 E市主催の講習会の様子

## 2) 講習会およびスポーツイベントの進行について

講習会はおよそ1時間のプログラムであり，以下のような内容で構成した。①雪上歩行具の装着（簡単に装着できるかんじきを使用したため，説明を含めても5分以内に装着することができた。また装着後に簡単な歩行練習を行った），②ゴルポッカのルール説明（ゴルポッカには難しいルール設定はなく，カラーコーンに当てるまでの打数を競うこと，OBゾーンはないこと，コースが荒れて足跡等の中に落ちたボールは打ちやすい所に取り出して打ってもよいことなどを5分程度で伝えた），③各自の練習時間（約10分），④コースでの本番（おおむね9ホールのコースを設営した。プレー時間はおよそ30分程度であった）。

スポーツイベントの場合には，来場した参加者にその都度スノーシューの装着方法及びゴルポッカのルール，安全面の配慮を伝え，参加者は準備が出来次第，自らコースにてプレーを楽しんだ。

講習会ではまとめの時間に，スポーツイベントではラウンド終了後にアンケート調査の依頼を行い，全員から自記式の回答が得られた。アンケート調査票は，ゴルポッカの楽しさに関する質問のほか，ゴルポッカの特徴に対する質問（コースが荒れやすいこと，雪上歩行具を装着すること，ルールを簡略化したこと等）や今後の実施意欲に関する質問，ゴルポッカについてさらに知りたい情報についての質問等で構成した。

## 3) 統計処理について

これらの回答結果は単純集計した後，年代差が認められるかどうかを検討するために，60歳以上と60歳未満の2群に分けて比較した。両群の比較にはマン・ホイットニ検定，あるいは $\chi^2$ 独立性の検定（ $2 \times 2$ ）を用いた。統計解析は統計ソフト「エクセル統計 Statcel 2」を用

いて行い、危険率5%未満を有意水準とした<sup>6)</sup>。

### 3. 結 果

ゴルポッカの楽しさについては80%が「とても楽しかった」、19%が「少し楽しかった」と回答した(図1)。年代による比較では、60歳以上の参加者が60歳未満に比べて「とても楽しかった」と回答した割合が有意に高かった( $p<0.05$ )。またゴルポッカではプレーすればするほどコースが荒れ、ハプニングが生じやすくなる。この特徴についても90%が「面白い」と回答した(図2)。雪上歩行具を装着して実施することについては、86%が「面倒とは思わない」と回答し(図3)、手軽に楽しめるようにルールを簡略化したことについても、75%が「このままでよい」と回答した(図4)。以上の①コースが荒れやすいこと、②雪上歩行具を履くこと、③ルールを簡略化したことに対する回答に、明らかな年代差は認められなかった。またゴルポッカ実施中に勝ち負けが気になったかについての質問では、85%が「まったく気にならなかった」と回答した(図5)。この傾向は、大会形式で実施したときにも同様に認められた。(13名中12名、92%)

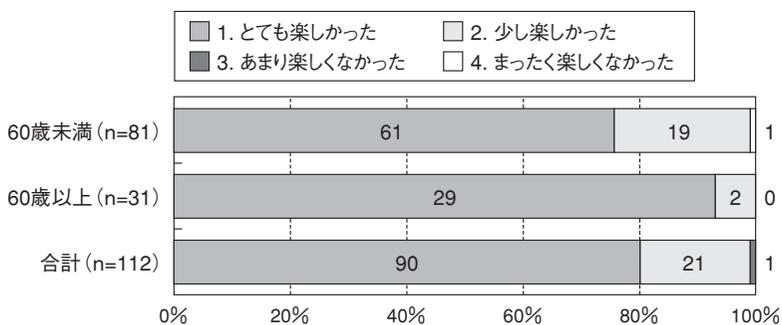


図1 ゴルポッカの楽しさについて

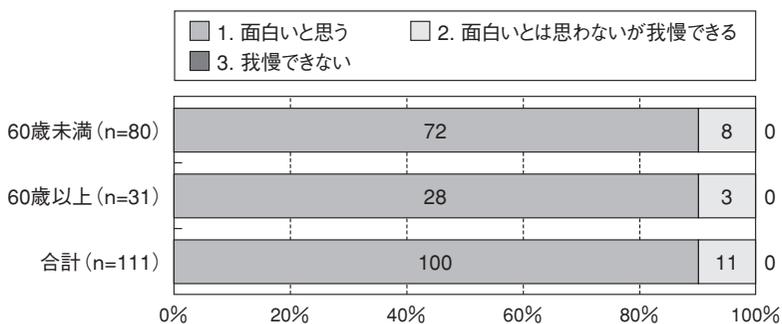


図2 コースが荒れてハプニングが生じることについて

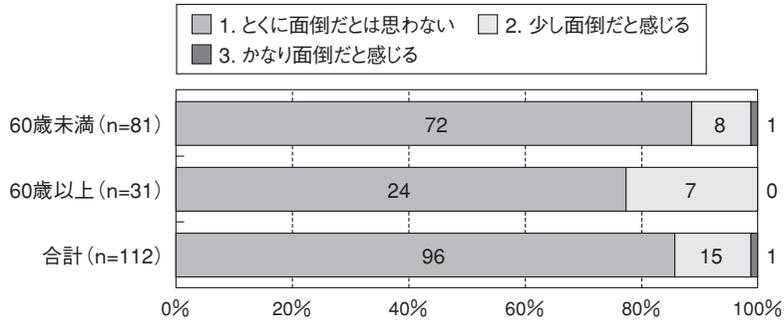


図3 かんじきを履くことについて

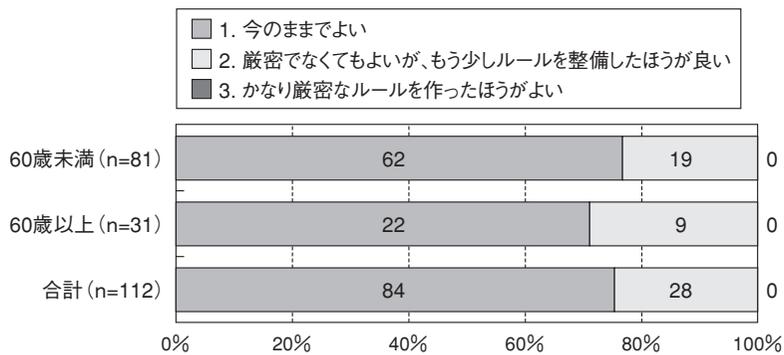


図4 簡便なルール設定について

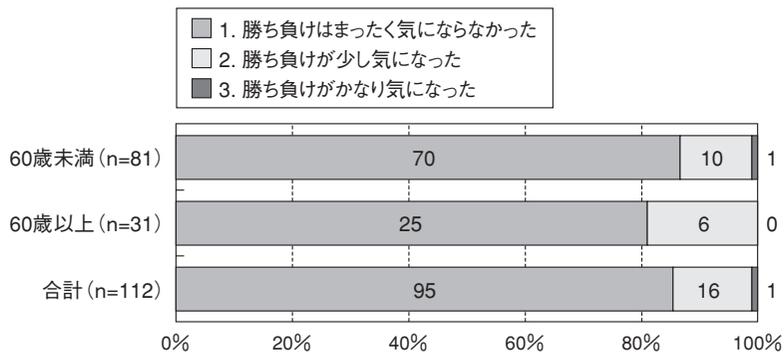


図5 勝ち負けの意識について

今後のゴルポッカ実施意欲に関しては、「講習会があれば積極的に参加したい」と回答した人は69%と高値であった（図6）。ただし「用具の貸し出しがあれば、ぜひやってみよう」と回答した人は55%に減少し（図7）、「自分で用具を揃えて実施したい」人はさらに少なく29%であった（図8）。用具の貸し出しによって積極的に実施したいと回答した人の割合は、60歳

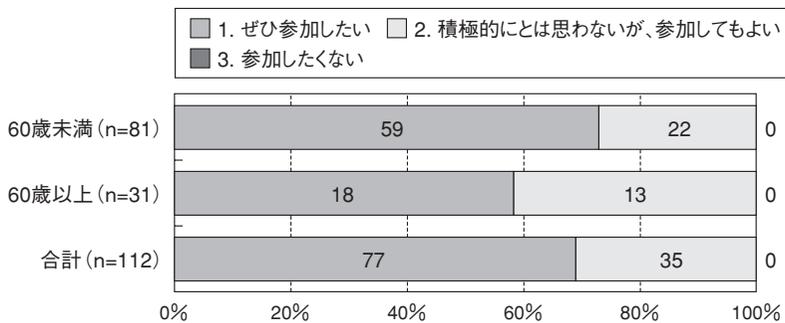


図6 今後の講習会への参加について

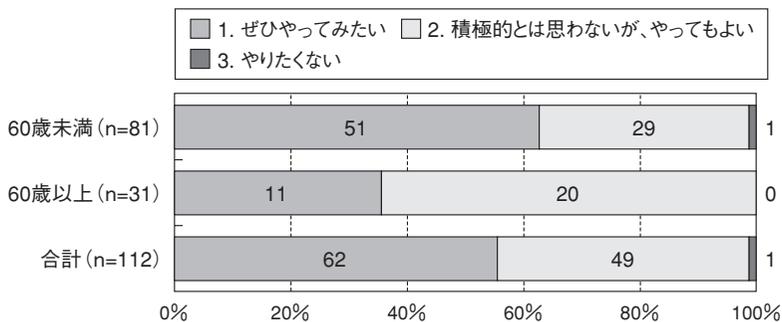


図7 用具貸出による実施について

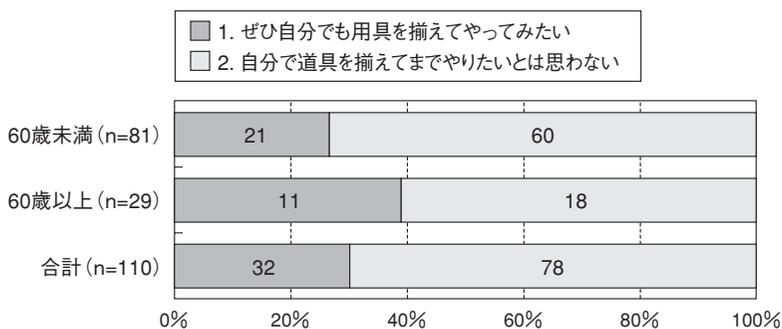


図8 用具購入による実施について

未満に比べて60歳以上のほうが有意に少なかった ( $p < 0.05$ )。

ゴルフボッカについてさらに知りたい情報に関しては、「体験会や一般開放の日程」が51%で最も多く、60歳未満のほうが60歳以上に比べてその割合は有意に高かった ( $p < 0.05$ , 図9)。一方、「ゴルフボッカ時の生理的反応といった科学的データ」を知りたいと回答した人の割合は、60

歳以上のほうが有意に高かった ( $p < 0.05$ )。

本研究の調査対象者において、57%はパークゴルフ未経験者であった (図10)。パークゴルフ歴とその他のすべての回答との間に有意な関係は認められなかった。

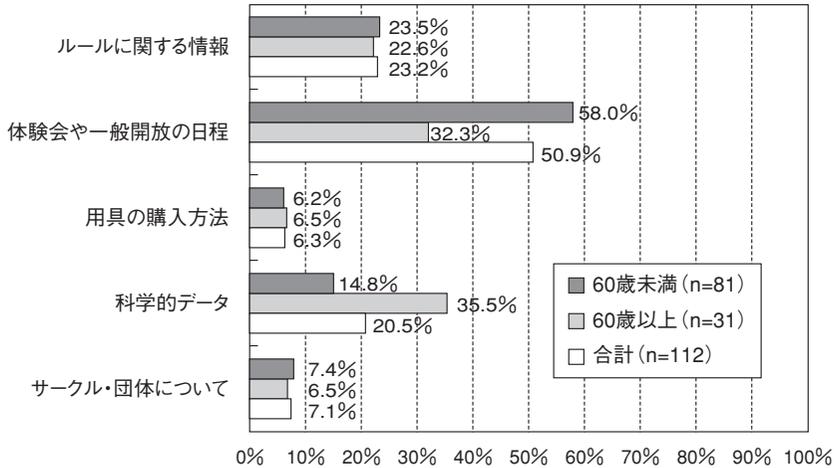


図9 今後さらに知りたい情報について (複数回答可)

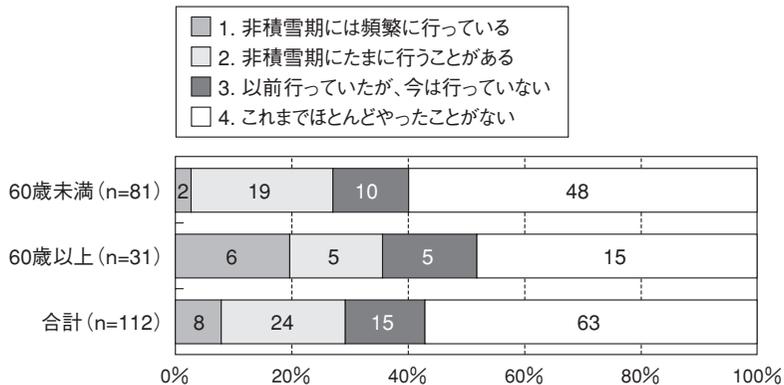


図10 パークゴルフ歴について

## 4. 考 察

### 1) ゴルポッカの楽しさとその要因について

本研究の目的は、ゴルポッカの一般講習会に参加した人を対象にアンケートを行い、ゴルポッカの生涯スポーツとしての可能性や今後の普及活動における課題等を抽出することであった。講習会参加者を対象としたアンケート結果から、ゴルポッカが年代や性別に関係なく楽しめるスポーツであることが明らかとなった。特に興味深かったのは、これまでほとんどパークゴルフ

フを経験したことのない人の多くがゴルフポッカを「とても楽しかった」と回答した点である。前述したように、ゴルフポッカは「パークゴルフ愛好者が積雪期にも継続してゴルフを楽しむことができるようにしたい」との目的で開発したスポーツである。本調査の結果は、ゴルフポッカがパークゴルフ愛好者の冬季における代替スポーツという役割だけでなく、積雪期の新たなスポーツ実施者の開拓につながる可能性を示唆するものといえる。

さまざまな年代の人が性別を問わずゴルフポッカを楽しむことができた要因の1つに、ゴルフポッカがパークゴルフの本質的な楽しさを損なうことなく実施できた点が考えられる。例えばゴルフポッカでは、どのような雪面でも実施できるように、かんじきやスノーシューなどの雪上歩行具を装着するなどの工夫を加えた。この点について「わずらわしい」と感じる人が多いのではないかと予想していたが、アンケート調査の結果では、ほとんどの人があまり面倒と感じていないことが明らかとなった。またゴルフポッカでは、簡単かつ手軽にできることを重視し、「足跡などに落ちたボールは取り出して打ってもよい」「OBラインやティーグラウンドを設定しない」のようにルールを簡略化した。これに対しても7割を超える人が「今のままでよい」と回答するなど、評価はよかったと考えられる。

年代や性別に関係なくゴルフポッカを楽しむことができたもう1つの要因として、ゴルフポッカ独自の楽しさも存在したことが考えられる。たとえば、ゴルフポッカではプレーすればするほど足跡などによってコースが荒れていく。これはパークゴルフにはないゴルフポッカの特徴といえる。このように荒れたコースでは、うまく打った打球が思わぬ方向へ曲がったり、穴に落ちたりするといったハプニングが非常に高い割合で生じることになる。そこで「技術ではなく笑いでカバーする」をスローガンにするなど、ハプニングを逆に楽しむことをアピールした。本研究の調査において90%の人がハプニングを面白いと感じたと回答したことから、ゴルフポッカをこのようなレクリエーション的スポーツとして位置づけることは妥当といえる。ただし今後の課題として、競技志向の強いパークゴルフ愛好者にとっても楽しめるスポーツであるかどうかを検討する必要があると考えられる。本研究ではパークゴルフ未経験者が多く、ゴルフポッカ実施時に勝敗が気になったかどうかについての質問に対して8割を超える人が「まったく気にならない」と回答するなど、競技志向の高い参加者があまり含まれていなかったことが考えられるからである。またレクリエーション志向の強い参加者からもコンペティション形式の大会開催を望む声も多く、これに対してどのようにアプローチしていくかもこれからの課題といえる。

## 2) ゴルフポッカの普及活動における課題について

ゴルフポッカでは、パークゴルフのように自ら道具を揃えて楽しむ人を増やすことを普及活動の目的としている。これに向けて今後どのような普及活動が必要であるか、その課題について考察を進める。本研究では、今後の実施可能性について「講習会があれば積極的に参加したいかどうか」「用具貸し出しがあれば自発的に実施したいかどうか」「用具を購入して実施してみたいか」の3つのステップに分けて質問した。その結果、積極的な回答が最も多かったのは、

「講習会があれば、積極的に参加したい（69%）」であった。ゴルボッカをはじめて体験した直後の意見であれば当然と考えられるが、現時点での普及活動としては指導者主体の講習会型のニーズが高いと考えられた。特に高齢の方にこの傾向は強く認められたのは、雪上歩行具を装着しなくてはならないことや、積雪環境において個人単位で運動しなくてはならないことについて不安を感じる人が多かったからではないかと考える。

次に多かったのは「用具の貸し出しがあれば積極的に実施したい」で55%の人が回答した。アンケート対象者のほとんどがはじめてゴルボッカを体験した人であったにもかかわらず、その直後に自ら実施したいという意見が半数以上の人から得られたことは、ゴルボッカの手軽さやルールの簡略化がよい影響を及ぼしたと考えられる。一方、目標である「用具を購入しての実施」を積極的に望んだ人は29%であった。この結果で興味深かったのは、「用具を購入しての実施」を希望した31人のうち20名（64%）がパークゴルフ未経験者であったことである。これは調査対象者全体とほぼ同じ割合であり、今後は、ゴルボッカをきっかけにパークゴルフを始める人が出てくることも期待される。

またゴルボッカに関して欲しい情報についての調査結果では、「ゴルボッカの講習会等の日程に関する情報が欲しい」との回答が約半数の人から得られた。前述の結果と併せ、講習会へのニーズが高いことを示す結果といえる。また興味深かったのは、60歳未満のほうが60歳以上に比べて講習会等のニーズが高かったことである。前述のように、ゴルボッカに対する感想において「とても楽しい」と回答した人の割合は60歳以上のほうが60歳未満に比べて高かった（図1）。高齢者に対しては、楽しさ以外の側面から次回の運動意欲につなげるための工夫が必要といえる。例えば健康維持・増進にどの程度効果があるのかを明らかにすることも、その工夫の1つと考えられる。本調査においても60歳以上では60歳未満に比べて、ゴルボッカ実施時の生理的反応といった科学的データについてのニーズが高かった。年齢が高くなるほど健康維持・増進のために運動する人の割合が増えることから、ゴルボッカが体力や健康を維持する運動として適しているというデータを示すことは運動意欲を高めることにつながると考えられる。

今後はこれらのデータを基礎に、さらに多くの参加者からのフィードバックを得ながら普及活動を進める予定である。

本研究は文部科学省「学術フロンティア推進事業（平成16年度～平成20年度）」による私学助成を得て行われた。

## 引用文献

1. 志手典之，新開谷央，伊藤久美子：非積雪期および降雪期における小学校児童の身体活動水準の差異について，北海道体育学研究，1988，23：33-42.

2. 浦上大輔, 浦田清, 布上恭子, 度会雅明, 浜野貢, 須田力, 中川功哉: 積雪地の高校生・高専生の生活と身体活動－積雪期と非積雪期における生活と身体活動の比較, 発育発達研究, 1997, 25: 20-28.
3. 須田力, 宮島成江, 浦上大輔: 積雪期における小都市勤労者の身体活動, 北海道大学教育学部紀要, 1998, 75: 17-32.
4. 片山昭義: ニュースポーツの楽しみ-パークゴルフの紹介を通して, 体育の科学, 2006, 56(2): 103-105.
5. 小田史郎, 加藤満, 千葉直樹, 吉田真, 白川和希: 積雪寒冷期に手軽に行える新スポーツの開発について, Proceedings of International Symposium on Winter Sports Sciences Commemorating the 2007 FIS Nordic Ski WC in Sapporo, edited by Uesugi, T., Hareyama, S., Kawahatsu, K., 132-136, 2008.
6. 柳井久江: 「4 Steps エクセル統計 [第2版]」, オーエムエス出版, 1998.

